

シンポジウム I：人口減少時代の「地方創生」と地方における自治体の役割

コーディネーター：平岡和久（立命館大学）

パネリスト 末宗徹郎（内閣官房まち・ひと・しごと創生本部次長、
内閣府地方創生推進室次長）

パネリスト 金子勝（慶應義塾大学）

パネリスト 中井英雄（大阪経済法科大学）

パネリスト 保母武彦（元島根大学）

安倍政権下で進められている「地方創生」政策について、主として、地方圏の自治体における現状と課題について明らかにすることが本シンポジウムのテーマである。日本創生会議の試算により、30年後の2040年には896の自治体が消滅の可能性があるとの見方が示されたことを契機として、多くの自治体ではその対応を迫られつつある。また、2014年11月にはまち・ひと・しごと創生法が可決され、2015年度を初年度とする地方創生戦略が打ち出されている。

シンポジウム I では、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部次長の末宗徹郎氏から「地方創生」戦略の現状と課題について、金子勝氏から地方からみた「地方創生」の実態について、中井英雄氏からは「地方創生」に地方財政が果たす役割について、保母武彦氏からは農山村地域に焦点を当てながら「地方創生」に関わる問題を整理していただき、人口減少時代における自治体の役割について、今後の方向性も含めて議論を深めていく。